



朱雀学校だより

特別号

全国学力学習

状況調査結果

特集



令和5年10月吉日

京都市立朱雀第三小学校

校長 畠澤 啓太郎

Tel 312-3203

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/suzakuda3-s/>

学校教育目標

自ら考え行動し しなやかな心で
なかまと共に力を高め合う子の育成

令和5年度 全国学力学習状況調査の結果

4月18日に、6年生を対象に実施された「全国学力学習状況調査」について、結果がまとめました。本調査は、国語・算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。その結果から、学力の様子や生活習慣についてなど、本校の子どもたちの状況をお伝えします。



総合結果（国語・算数）



国語、算数共に、全国・京都府平均を上回る結果でした。また、無回答率は、ほとんどの問題で、国語も算数も全国・京都府平均よりも低い結果でした。この結果から、児童が問題に向き合い、最後まで粘り強く考える姿勢が育つてきていると考えます。

国語科より



ほとんどの設問で、全国・京都府平均を上回っています。なかでも「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」問題（設問1-2）では、全国・京都府平均より大きく上回る結果が見られました。またその設問の全国・京都府・本校の解答傾向を見ると複数の情報を用いず、一部の情報だけを用いて、自分の考えを書いているために誤答となっている傾向が高かったです。今後も、「複数の情報を用いることにより効果的に自分の考えを書く力」をつけていく必要があると考えています。

その一方で、「文章の種類とその特徴について答える問題（設問1-4）では、全国・京都府平均を下回る状況が見られました。日常生活で子どもたちが触れる文章には、推薦する文章、説明する文章、提案する文章、など様々です。本調査で取り上げられたことは今回初めてですが、今後、「文章の種類とその特徴を理解する力」も求められてきます。

算数科より



ほとんどの設問で、全国・京都府平均を上回っています。なかでも「示された日常生活の場面（3種類のファイル23人分の長さを求める場面）を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する」問題（設問3-2）では全国平均と比べて16.5ポイント上回る結果でした。

また「伴って変わる二つの数量の数量について考察する」問題で

○表から変化の特徴を読み取り、

表の中の数を求める問題（設問1-1）、

○比例の関係ではないことを説明するために

表の中の適切な数の組を用いる問題（設問1-2）

の正答率が約95%という高い結果が見されました。

日々の授業では、「対話する力」、「課題を解決する力」を大切にしています。今後も引き続き「問題の解決方法を式や言葉を用いて説明する力」を育てていきます。

児童質問紙調査から

Q 「学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の設問では、(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)と回答している児童の割合が約80%で、全国・京都府平均を上回る結果でした。また当てはまると回答している児童の割合も全国・京都府平均を上回っていました。

Q 「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」の設問では、(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)と回答している児童の割合が、約87%で、全国・京都府平均を上回る結果でした。また当てはまると回答している児童の割合も全国・京都府平均を上回っていました。

子どもたちは学習したことをその時間だけの学習で終わらせるのではなく、前後の学習と関連付けて考えたり、ある教科の学びを他の教科の学びで活用したり関連づけたりする(例えば国語で学習したことを社会で生かす、算数で学習することを理科で生かすなど)ことで学びが深まったり、活用できることを実感していることが分かりました。

一方、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の設問では(当てはまる・どちらかといえば、当てはまる)と回答している児童の割合は約80%でしたが全国・京都府平均を若干下回りました。本校で育成したい資質・能力の「対話する力」を大切にすることであらに**主体的・対話的で深い学び**を重視した授業を実践していきます。

全体を通して本校の成果と課題

共に学び合い
考え方を深める



本校では、「自分の課題を見つけ 他者と対話を重ねながら探究し Well-being を目指す子どもの育成」～自ら考え行動し、他者と協働しながら、互いの力を高め合う授業を目指して～という研究テーマのもと、授業改善に取り組んでいます。

また、本校で<育成したい資質・能力>の

- ・各教科等の「見方・考え方」を働きさせ、深い学びに向けて、他者と自分のおもいや考えを表現し、**対話する力**
- ・他者と協働しながら、根拠をもって筋道立てて考え、**課題を解決する力**

を日頃の授業で大切にしています

今回、ほとんどの設問で、全国・京都府平均を上回ったことから、日々の授業で大切にして取り組んできたことが積み重ねとなり、成果として表れてきたのではないかといえます。

しかし、全国・京都府平均を上回っているものの全員が正答しているわけではありません。児童が正答できなかった解答を分析すると、文章、図や表、グラフなどの情報から目的に応じて必要な情報を読み取ったり、とらえたりする力、読み取った情報をもとに目的や意図に応じて自分の考えや意見が伝わるようにまとめる力に課題があることがわかるようになりました。これらの力の育成には「育成したい資質・能力」の「**対話する力**」・「**課題を解決する力**」が大きく関わっており、6年生だけで育つものではありません。今後も学校全体の課題ととらえ日々の授業はもちろん、家庭学習や読書タイム、スキルタイム等、学校の様々な取組と連動させ、ご家庭とも連携して取り組んでいきます。

保護者の皆様へ

全国学力学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくために実施しています。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着し、さらに伸びていくものです。また、望ましい生活習慣や日々の学習習慣が、その基盤となります。今後とも引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力いただきますようお願いいたします。